

- 達成度：R6.3.31の自己評価
- 5 目標を完全に達成した。
 - 4 目標を概ね達成した。
 - 3 目標を一部達成した。
 - 2 目標をほとんど達成できなかった。
 - 1 目標をまったく達成できなかった。

学校給食センターの目標（令和6年度）自己評価書

学校給食センター所長 伊藤 雄三

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 安全安心な学校給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で生産された安全で新鮮な野菜や加工品を利用し、地産地消を推進します。 ・食材の仕入れから、下処理、調理、配送に至るまで、衛生基準を遵守し食の安全を守ります。 ・食物アレルギーのある児童生徒の安全を確保するため、詳細な献立表を配付し保護者と情報共有するほか、学校教職員との連携を徹底します。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産食材（米・生鮮野菜・味噌）を使用し、地産地消を推進するとともに、献立表への記載や校内放送での説明により児童生徒の意識の向上を図ることができました。 ・徹底した衛生管理により、大きなトラブルなく給食の提供ができました。 ・食物アレルギー成分を記載した献立表の配付（希望者）とともに、栄養教諭と教職員との綿密な打ち合わせにより、食物アレルギー事故が起きないように取り組みました。
<p>2 学校給食を活用した食育の推進</p> <p>栄養教諭等が中心となり、学年に応じた「食」のテーマを設け、子ども達が食に関する興味関心を高め、知識を深める指導を行います。また、食生活の正しい知識の普及のため「給食だより」や「給食センターからこんにちは」を作成し、各校や児童生徒、保護者に配付します。</p>	4	<p>栄養教諭を中心に、学年ごとのテーマに沿って食育授業を実施しました。中学生に対しては、11月の食育週間に合わせて残菜調査を実施し、その後の残菜量の減少につながられたものと考えます。</p>

<p>3 学校給食費の徴収管理及び保護者の負担軽減</p> <p>学校給食費の徴収管理を適正に行うとともに、給食費滞納者については例規に基づき厳正に督促・催告を行います。なお、督促・催告に応じない滞納者に対しては、個別の実態把握を行い、滞納の理由を確認した上でやむを得ないと判断した場合は、支払督促を利用し徴収にあたります。</p> <p>また、第3子以降の学校給食費無償化により多子家庭の負担軽減を図ります。</p> <p>千葉県が実施する市町村の第3子以降給食費無償化支援事業補助金及び国庫補助金（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）を活用した保護者世帯への負担軽減策を検討します。</p> <p>チャレンジ目標</p> <p>1 老朽化が進む学校給食センターの今後のあり方について、調理等業務を富里市に委託することに向け、庁内調整を行うとともに、富里市との検討を進めます。その上で、令和7年9月1日からの委託について、町議会6月定例会に提案し議決を得られるよう準備を進めます。</p> <p>議決が得られた後は、富里市センターの設備更新及び町内児童生徒が使用する備品類の購入に向けて調整を行うほか、町学校給食センター関係例規の改廃に向けた準備を行います。また、学校関係者、食材関係者との意見交換を実施していきます。</p>	<p>4</p> <p>4</p>	<p>給食費滞納世帯に対して、電話や対面による相談業務を行い、相手方の事情を聴取した上で、その内容により可能な範囲で柔軟に対応することで収納につなげられたものと考えます。</p> <p>また、第3子以降学校給食費無償化事業については、千葉県補助金の申請事務と併せて円滑に実施することができました。</p> <p>なお、物価高騰による食材費の値上がり分について、国庫補助金を充当することにより、給食費の値上げを抑制し、子育て世帯の負担軽減に努めました。</p> <p>さらに、国庫補助金を利用して4・5月分の給食費を免除しました。</p> <p>概ね予定どおりに事業を進めることができました。特に、保護者や事業者に対して、事業への理解が得られるよう周知を行いました。</p> <p>また、事業実施に向けて富里市と詳細協議を重ね、円滑な事業のスタートに向けて調整をしました。</p>
--	-------------------	---